秋 田 県

土木工事共通仕様書

令和８年１０月１日以降適用

品質管理基準

【 空 港 編 】

赤字：秋田県独自項目

青字：今 回 改 訂 部 分

（R8.10.1 改訂）

空港土木工事品質管理基準

目　　次

１．石・ブロック積(張)工……1
２．無筋・鉄筋コンクリート……1
３．土　工 ……3
４．地盤改良工 ……4
５．法面工 ……5
６．擁壁工 ……6
７．カルバート工 ……6
８．小型水路工 ……6
９．緑地工……6
10. 付帯施設工及びブラストフェンス工……7
11. ケーブルダクト工 ……7
12. 杭工及び矢板工 ……8
13. 塗装工 ……9
14. 溶接及び切断工 ……9
15. コンクリート舗装工……10
16. アスファルト舗装工……19
17. 飛行場標識工及び標識工……22
18. タイダウンリング工及びアースリング工……22
19. 道路付属施設工 ……22
20. 飛行場標識維持工 ……22
21. 区画線維持工 ……23
22. 植木手入れ工 ……23
23. 目地修繕工 ……23
24. 塗装修繕工 ……23

1．石・ブロック積(張)工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
石・ブロック積張工	コンクリート	施工	2．「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する				
	石積(張)	材料		JIS A 5003	当初及び材料が異なる ごとに１回	JIS A 5003	試験成績表を提出
	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積(張)	材料		JIS A 5371 附属書D	搬入時	JIS A 5371	試験成績表を提出
	水抜きパイプ	材料		JIS K 6741	搬入時	JIS K 6741	試験成績表を提出
	基礎材	材料	粒度試験	JIS A 1102, JIS A 1204	当初及び材料が異なる ごとに１回		試験成績表を提出
			含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なる ごとに１回		試験成績表を提出

2．無筋・鉄筋コンクリート

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
無筋、鉄筋コンクリート	現場練りコンクリート及びレディーミクストコンクリート	材　　料	セメントの物理試験	JIS R 5201	配合設計前に 1 回	・JIS R 5210(ポルトランド セメント) ・JIS R 5211(高炉セメント) ・JIS R 5212(シリカセメン ト) ・JIS R 5213(フライアッシ ュセメント) ・JIS R 5214(エコセメント)	1.搬入時に試験成績表を提出 2.セメントを3箇月以上貯蔵したり、又は湿った場合は、物理試験を行う
			骨材の有害物試験	粘土塊 JIS A 1137 骨材の微粒分量試験方法はJIS A 1103	配合設計前及び材料が異なるごとに1回	・細骨材は、共通仕様書第 2 編 2-4-2「コンクリート舗装 の材料」13. 細骨材を適用 ・粗骨材は、共通仕様書第 2 編 2-4-2「コンクリート舗装 の材料」14. 粗骨材を適用	試験成績表を提出
			細骨材の有機不純物 試験	JIS A 1105	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	共通仕様書第 2 編 2-4-2「コンクリート舗装の材料」 13.3）を適用	試験成績表を提出
			細骨材の塩分含有量試験	土木学会規準 JSCE-C502-2023　海砂の塩化物イオン含有率 試験方法 （滴定法（案）」による	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	NaCℓ に換算して 0.04%以下	試験成績表を提出
			鉄筋	JIS G 3112、JIS G 3101、 JIS G 3117	搬入時	JIS G 3112、JIS G 3101、 JIS G 3117	試験成績表を提出
			目地材料		搬入時		試験成績表を提出
			その他は、15.「コンクリート舗装工」を適用 する		その他は、15.「コンクリート舗装工」を適用する		
	コンクリートプラント（現場練りコンクリート）	施　　工	15.「コンクリート舗装工」を適用する		15.「コンクリート舗装工」を適用する		

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
無筋・鉄筋コンクリート	現場練りコンクリート及びレディーミクストコンクリート	施工	スランプ	JIS A 1115、JIS A1101	供試体作製時	設計図書及び JIS A 5308 に よる	
			単位水量測定	「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領（案）」（平成16年3月8日）	少なくとも 2 回/日（正午 をまたぐと きは午前・午後各 1 回）又は 特に重要な構造物では重要度に応じ 1 回/100～150 ㎥ 荷卸し時に変化が認め られた場合	・測定した単位水量が、配合設計±15kg/m3 の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 ・測定した単位水量が、配合設計±15kg/m3 を超え± 20kg/m3 の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m3 以内で安 定するまで、運搬車 3 台毎に1回、単位水量の測定を行なう。 ・配合設計±20kg/m3　指示値を超える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ 水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m3　以 内になることを確認する。更に配合設計±15kg/m3　以 内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行なう。なお、管理値又は指示値を超える場合は1回に限り試験を実施 することができる。再試験を実施したい場合は 2 回の測定結果のうち、配合設計と差の絶対値の小さい方で評価してよい	レディーミクストコンクリートを使用する場合 、
			空気量	JIS A 1116、JIS A 1118、 JIS A 1128	供試体作製時	4.5%±1.5% （ 軽 量 コ ン ク リ ー ト 5%±1.5%）	
			温度	温度計による	供試体作製時	設計図書に規定	暑中、寒中コンクリート又 は監督職員が認めた場合
	現場練りコンクリート	施　　工	圧縮強度	JIS A 1108、JIS A 1115、 JIS A 1132	1　日ごとに少なくとも1　回、又はコンクリート 150m3 ごとに 1 回、1　回につき 3　個の28日強度用供試体を作製	1　回の試験結果は設計基準強度の値 85%以上。 3　回の試験結果の平均値は設計基準強度以上であること。	設計基準強度は設計図書による
	レディーミクストコンクリート	施　　工	圧縮強度	JIS A 1108、 JIS A 1115、JIS A 1132	1　日ごとに少なくとも1　回、又はコンクリート 150m3 ごとに 1 回、1　回につき 3　個の28日強度用供試体を作製 JIS　の工場製品で同一の配合の 1 日当たり打設量が少量の場合は、監督職員の承諾を得て打設日数に関 係なく100m3 ごとに 1 回とすることができる。	1　回の試験結果は呼び強度(指定強度)の値 85%以上。 3　回の試験結果の平均値は呼び強度(指定強度)以上であること。	呼び強度は設計図書による

3．土工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
土工	搬入盛土 (購入土)	材料	土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なるごとに 1 回		
			骨材のふるい分け試 験	JIS A 1204	当初及び材料が異なるごとに 1 回	最大寸法 300 ㎜	
			土の塑性指数試験	JIS A 1205	当初及び材料が異なるごとに 1 回	0.425 ㎜ふるい通過分の塑 性指数(PI)30 以下	
			CBR 試験	JIS A 1211 による	当初及び材料が異なるごとに 1 回	仕様密度における修正 CBR5%以上	
			土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び材料が異なるごとに 1 回		
		施工	土の含水比試験	JIS A 1203、簡易方法 又は RI 法による	1 日ごとに 1 回、又は 2,000 ㎡ごとに 1 回 (RI 法)	最適含水比付近	
			締固め密度試験	最大粒径≦53 ㎜：砂置換法（JIS A 1214最大粒径＞53 ㎜：突砂法舗装調査・試験法便覧Ⅲ 7-2 又は RI 法による	2,000 ㎡ごとに 1回、又は施工箇所一層ごとに 1 日 15 点（RI 法）	材料の項で求めた最大乾 燥密度の 90%以上 RI 法による場合は 92%以 上	
			飽和度試験	JIS A 1202 土粒子の密度試験方法、現場における土の飽和度 又は空気間隙率試験方法	2,000 ㎡ごとに 1 回	85～95%(空気間隙率 2～10%)	粘性土に適用
			工法規定	タスクメータによる	設計図書に規定	設計図書に規定	中硬岩、硬岩
	流用盛土 (流用土、 発生土、 採取土)	材　　料	土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なるごとに 1回		
			土の塑性指数試験	JIS A 1205	当初及び材料が異なるごとに 1回	設計図書に規定	
			土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び材料が異なるごとに 1回		
		施　　工	土の含水比試験	JIS A 1203、簡易方法 又は RI 法	1 日ごとに 1 回、又は 2,000 ㎡ご とに 1 回 (RI 法)	最適含水比付近	
			締固め密度試験	最大粒径≦53 ㎜： 砂置換法（JIS A 1214 最大粒径＞53 ㎜： 突砂法舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 7-2、又は RI 法に よる	2,000 ㎡ごとに 1回、又は施工箇所一層ごとに 1 日 15 点(R I 法)	材料の項で求めた最大乾燥密度の 90%以上 RI 法による場合は 92%以上	
			飽和度試験	JIS A 1202 土粒子の 密度試験方法、現場に おける土の飽和度又は 空気間隙率試験方法に よる	2,000 ㎡ごとに 1 回	85～95% (空気間隙率 2～10%)	粘性土に適用
			工法規定	タスクメータによる	設計図書に規定	設計図書に規定	中硬岩、硬岩

4．地盤改良工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
地盤改良工	置換え 敷　砂 ｻﾝﾄﾞｺﾝﾊﾟｸｼｮﾝﾊﾟｲﾙ ｻﾝﾄﾞﾄﾞﾚｰﾝ	材料	種類、品質及び粒度	JIS A 1102、 JIS A 1204	当初及び材料が異なる ごとに 1 回	設計図書に規定	搬入時に試験成績表を提出
	置 換 え	施工(陸上)	土の含水比試験	JIS A 1203 又は簡易法 又は RI 法	1 日ごとに 1 回	最適含水比付近	
			締固め密度試験	JIS A 1214(砂置換法) 又は RI 法	1,000 ㎥ごとに 1 回施工箇所 1 層ごとに 1 日15 点	最大乾燥密度の 90%以上	
		施工(水中)	水質汚濁	設計図書による		設計図書に規定	
	敷砂	施工(水中)	水質汚濁	設計図書による		設計図書に規定	
	ｻﾝﾄﾞｺﾝﾊﾟｸｼｮﾝﾊﾟｲﾙ	施工	打込機	磁気記録装置の有無の 確認	使用機械ごとに 1 回	磁気記録と施工実績の一致	試験施工の実施
			ケーシングパイプ内 の砂面の変動量		全数		
			砂杭の形成状況		全数		
			ケーシングパイプの 鉛直度		施工前及び監督職員の 指示したとき		
			砂の体積変化率を考 慮した管理基準値に 対応する記録		全数		
			ケーシングパイプへ の砂投入量		全数		
	ｻﾝﾄﾞﾄﾞﾚｰﾝ	施工	ケーシングパイプ内 の砂面の変動量		全数		
			ケーシングパイプ内 の鉛直度		施工前及び監督職員が 指示したとき		
			ケーシングパイプ内 への砂投入量		全数		
	ﾍﾟｰﾊﾟｰﾄﾞﾚｰﾝ (排水材)	材料	種類、品質	設計図書による	当初及び材料が異なる ごとに 1 回	設計図書に規定	搬入時に試験成績表を提出
		施工	打込機	磁気記録装置の有無の確認	使用機械ごとに 1 回	磁気記録と施工実績の一致	試験施工の実施
	深層混合処理	材料	セメントの物理試験	JIS R 5201	配合設計前に 1 回	・JIS R 5210(ポルトランドセメント) ・JIS R 5211(高炉セメント) ・JIS R 5212(シリカセメント) ・JIS R 5213(フライアッシュセメント) ・JIS R 5214(エコセメント)	1.セメントは、搬入ごとに製造会社の試験表を提出 2.セメントを 3 ヵ月以上貯蔵したり湿った場合、物理試験を行う
			水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合：JIS A 5308 附属書JC	工事開始前及び工事中1 回/年以上及び水質が変わった場合	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメント凝縮時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強さの比：材齢7 日及び材齢 28 日で 90%以上	・上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書JC	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合 スラッジ水の濃度は1回/日	塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は 30分以内、終結は60 分以内 モルタルの圧縮強さの比：材齢 7 日及び材齢 28 日で 90%以上	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。 試験成績表を提出

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
地盤改良工	深層混合処理	材　　料	混和材料	AE　剤及び減水剤は JIS A 6204、フライア　ッシュは JIS A 6201、高炉スラグは JIS　A 6206、シリカフューム　は JIS A　　6207	搬入時		試験成績表を提出
			配合設計		材料の異なるごとに 1 回	設計図書に規定	
		施工	計量設備		作業開始前に行う	設計図書に規定	
			貫入引抜き試験		施工前に 1 回		
			混合処理試験		施工前に 1 回		試験打ち
			処理機	自記記録装置 機械の諸元、能力	施工前に 1 回		試験打ち
			硬化材の各材料の計 量値	計量設備による	全数	設計図書に規定	
			かくはん軸の回転数		全数		
			かくはん軸の回転ト ルク又はこれに対応 する起動力		全数		
			処理機の昇降速度		全数		
			計量器目盛の検査		作業開始前	計量誤差 水±1% セメント±1% 混和剤±3%	
			処理機の吊り荷重		監督職員の指示したとき		
			硬化材の吐出量		全数		
			処理機先端の軌跡		全数		
	載　　荷	材料	種類、品質及び粒度	JISA1102.1204 又は 監督職員の承諾する方法	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出
		施工	沈下	計測器	設計図書に規定		
	ｳｪﾙﾎﾟｲﾝﾄ	施工	地下水位	観測井戸	設計図書に規定		
			沈下	計測器	設計図書に規定		
			揚水量		適時		
			真空度		適時		

5．法面工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
法面工	法面工	材料及び施工	法面保護を張芝、筋芝又は植生により施工する場合は、9.「緑地工」を適用する。 セメントモルタル吹付けによる法面保護は、2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する。 法面を石・ブロック積(張)する場合は、1.「石・ブロック積(張)工」を適用する。		法面保護を張芝、筋芝又は植生により施工する場合は、9.「緑地工」を適用する。 セメントモルタル吹付けによる法面保護は、2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する。法面を石・ブロック積(張)する場合は、1.「石・ブロック積(張)工」を適用する。		

６．擁壁工
現場打ち擁壁工の品質管理は、2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する。

７．カルバート工
現場打ちカルバート工の品質管理は、2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する。 なお、小型水路工に使用するカルバートは、8.「小型水路工」を適用する。

８．小型水路工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
小型水路工	基礎材	材料	骨材のふるい分け試験 土の粒度試験	JIS A 1102、JIS A 1204	当初及び材料が異なるごとに 1 回	設計図書の規定による	試験成績表を提出
			土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なるごとに 1 回		試験成績表を提出
	コンクリート	施工	2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する		2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する		
	鋼材	材料		JIS G 3101、JIS G 3131、 JIS G 3141、JIS A 5513、 JIS B 1180、JIS B 1181、 JIS B 1186、JIS B 1256	搬入時	JIS G 3101、JIS G 3131、 JIS G 3141、JIS A 5513、 JIS B 1180、JIS B 1181、 JIS B 1186、JIS B 1256	試験成績表を提出
	コンクリート製品	材料		JIS A 5371、JIS A 5372、 JIS A 5364、JIS A 5361、 JIS A 5365、 JIS A 5373	搬入時	JIS A 5371、JIS A 5372、 JIS A 5364、JIS A 5361、 JIS A 5365、JIS A 5373	試験成績表を提出
	塩化ポリビニル管 強化プラスチック複合管 耐圧ポリエチレンリブ管	材料		JIS K 6741 JIS A 5350 JIS K 6780	搬入時	JIS K 6741 JIS A 5350 JIS K 6780	試験成績表を提出
	フィルター材 料	材料	骨材のふるい分け	JIS A 1102	採取地ごとに 1 回	共通仕様書第5編 5-5-9-2「材料」 6.1）～5）を適用	試験成績表を提出
	継目材	材料		監督職員の承諾する方法	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出

９．緑地工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
緑地工	植樹	材　　料	樹高、幹周り	監督職員の承諾する方法	搬入時	設計図書に規定	
	播種 種子吹付	材　　料	発芽試験	監督職員の承諾する方法	種子ごとに 1 回	発芽率 80%以上	試験成績表を提出

10.付帯施設工及びブラストフェンス工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
付帯施設工及びブラストフェンス工	木材	材　　料		監督職員の承諾する方法		設計図書に規定	
	鋼材 鉄線類	材　　料		JIS G 3101、JIS G 3131、 JIS G 3141、JIS G 3350、 JIS G 3351、JIS G 3444、 JIS G 3452、JIS G 3466、 JIS G 3532、JIS G 3533、 JIS G 3548、JIS G 3552、 JIS B 1180、JIS B 1181、 JIS B 1186、JIS B 1256、 JIS H 8610、JIS H 8641	搬入時	JIS G 3101、JIS G 3131、 JIS G 3141、JIS G 3350、 JIS G 3351、JIS G 3444、 JIS G 3452、JIS G 3466、 JIS G 3532、JIS G 3533、 JIS G 3548、JIS G 3552、 JIS B 1180、JIS B 1181、 JIS B 1186、JIS B 1256、 JIS H 8610、JIS H 8641	試験成績表を提出
	FRP	材　　料	引張強度	JIS K 7165	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出
			曲げ強度	JIS K 7017、A法	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出
			曲げ弾性率	監督職員の承諾する方法	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出
	塗料	材　　料	13.「塗装工」を適用する		13.「塗装工」を適用する		
	溶接	材　　料及び施工	14.「溶接及び切断工」を適用する		14.「溶接及び切断」を適用する		
	基礎コンクリート	材　　料及び施工	2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する		2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する		
	用地境界杭	材　　料	コンクリートの圧縮強度	JIS A 1108、JIS A 1115、 JIS A 1132	1 日ごとに少なくとも 1回又はコンクリート 150㎥ごとに 1 回、1 回につ き 3 個の 28 日強度用供試体を作製	21N/㎟以上	JIS　工場製品で同一の配 合の 1 日当たり打設量が 少量の場合は、監督職員の承諾を得て打設日数に 関係なく100 ㎥ごとに 1 回とすることができる。

11.ケーブルダクト工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
ケーブルダクト工	ｹｰﾌﾞﾙﾀﾞｸﾄ(ｺﾝｸﾘｰﾄ)	材料	現場練りコンクリート及びレディーミクストコンクリートについては、2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する		現場練りコンクリート及びレデイーミクストコンクリートについては、2.「無筋、 鉄筋コンクリート」を適用する		
	ｹｰﾌﾞﾙﾀﾞｸﾄ(管線材類)	材料		JIS G 3452 JIS K 6741 JIS C3105、JIS C3653、 JIS C8305、JIS C 8380	搬入時	JIS G 3452 JIS K 6741 JIS C 3105、JIS C 3653、 JIS C 8305、JIS C 8380	試験成績表を提出

12.杭工及び矢板工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
杭工及び矢板工	鋼杭 (鋼管、H形)	材料	本体・付属品の化学 成分、機械的性質	JIS A 5525、JIS A 5526、 JIS G 3101、JIS G 3106、 JIS G 3114、JIS G 3125、 JIS G 3444 （製造工場の試験成績表（ 検 査証明書 ）により確 認）	搬入時、ロットごと	JIS に適合していること	試験成績表(検査証明書)を提出
			外観	JIS A 5525、JIS A 5526、 JIS G 3101、JIS G 3106、 JIS G 3114、JIS G 3125、 JIS G 3444 （観察）	搬入時、全数	有害な傷、変形等がないこと	
			形状寸法	JIS A 5525、JIS A 5526、 JIS G 3101、JIS G 3106、 JIS G 3114、JIS G 3125、 JIS G 3444 （製造工場の試験成績表（ 検 査証明書 ）により確 認）	搬入時	JIS 及び設計図書の形状寸法 に適合していること	試験成績表(検査証明書)を提出 工揚出荷時の測定表を含む
			溶接部	設計図書による （JIS Z 3104 放射線透過試験、 JIS Z 3060 超音波探傷試験など）	設計図書による	割れ、ブローホール及びのど 厚並びにサイズの過不足等 有害な欠陥がないこと	試験成績表(検査証明書)を提出
	コンクリート杭	材料	外観、形状寸法	JIS A 5372、JIS A 5373	搬入時	JIS A 5372、5373	試験成績表(検査証明書)を提出
	場所打コンクリート杭	材 料 及び 施 工	2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する		2.「無筋、鉄筋コンクリート」を適用する		
	鋼矢板	材料	化学成分、機械的性 質	JIS A 5523、JIS A 5528 （製造工場の試験成績表（ 検 査証明書 ）により確 認）	搬入時、ロットごと	JIS に適合していること	試験成績表(検査証明書)を提出
			外観	JIS A 5523、JIS A 5528 （製造工場の試験成績表（ 検 査証明書 ）により確 認）	搬入時、全数	有害な傷、変形等がないこと	
			形状寸法	JIS A 5523、JIS A 5528 （製造工場の試験成績表（ 検 査証明書 ）により確 認）	搬入時	JIS 及び設計図書の形状寸法 に適合していること	試験成績表(検査証明書) を提出 工揚出荷時の測定表を含む
			溶接部	設計図書による （JIS Z 3104 放射線透 過試験）	設計図書による	割れ、ブローホール及びのど 厚並びにサイズの過不足等 有害な欠陥がないこと	試験成績表(検査証明書)を提出
	鋼管矢板	材料	本体・付属品の化学 成分、機械的性質	JIS A 5530 （製造工場の試験成績表（ 検 査証明書 ）により確 認）	搬入時、ロットごと	JIS に適合していること	試験成績表(検査証明書)を提出
			外観	JIS A 5530 （観察）	搬入時、全数	有害な傷、変形等がないこと	
			形状寸法	JIS A 5530 （製造工場の試験成績表（ 検 査証明書 ）により確 認）	搬入時	JIS 及び設計図書の形状寸法 に適合していること	試験成績表(検査証明書)を提出 工揚出荷時の測定表を含む
			溶接部	設計図書による （JIS Z 3104 放射線透 過試験、JIS Z 3060 超音 波探傷試験など）	設計図書による	割れ、ブローホール及びのど 厚並びにサイズの過不足等 有害な欠陥がないこと	試験成績表(検査証明書)を提出
	コンクリート 矢板	材料	外観、形状寸法	JIS A 5372、JIS A5373	搬入時	JIS A 5372、5373	試験成績表(検査証明書)を提出

13. 塗装工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
塗装工	塗　　料	材　　料		JIS K 5600-1-1～9-3	搬入時	JIS K 5600	試験成績表を提出

14. 溶接及び切断工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
溶接及び切断工	溶接材料	材　　料	材質	種類 （観察）	施工中適宜	設計図書による	
				JIS Z 3211、JIS Z 3312、 JIS Z 3313、JIS Z 3319 （製造工場の試験成績表 により確認）	搬入前に 1 回	設計図書による	監督職員が指示したとき 試験成績表（検査証明書 を提出
			溶接部の強度	引張り及び曲げ （JISZ 3121、JISZ 3131 等公的機関の試験成績に よる確認）	設計図書による	設計図書による	監督職員が指示したとき 試験成績表（検査証明書 を提出
				非破壊試験、カラーチェック （JIS Z 3104　放射線透 過試験の他、設計図書による）	設計図書による	設計図書による	写真データを提出
	ガス切断材		材質	種類 （観察）	施工中適宜	設計図書による	
				JIS K 1101、JIS K1902 （製造工場の試験成績表により確認）	搬入前に 1 回	設計図書による	監督職員が指示したとき 試験成績表（検査証明書 を提出

、

15. コンクリート舗装工

工種	種別		材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規格値	摘要
コンクリート舗装工	路床工	盛土路床工	材料	土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料の異なるごとに 1 回		
				土の粒度試験	JIS A 1204	当初及び材料の異なるごとに 1 回	最大寸法 100 ㎜(150 ㎜)	(　　)路床上部 30　㎝を除く 部分
				土の塑性指数試験	JIS A 1205	当初及び材料の異なるごとに 1 回	0.425 ㎜ふるい通過分の塑性指数(PI)10 以下	
				CBR 試験	JIS A 1211 による	当初及び材料の異なるごとに 1 回	仕様密度における修正 CBR 10%以上	
				土の締固め試験	JIS A 1210 に規定する D 又は E の方法、又は設計図書の規定による	当初及び材料の異なるごとに 1 回		
			施工	含水比試験	JIS　A 1203、簡易方法又は RI 法による	1 日ごとに 1 回、又は 2,000㎡ごとに 1 回 (RI 法)	最適含水比付近	
				締固め密度試験	最大粒径≦53 ㎜： 砂置換法（JIS A 1214）　最大粒径＞53 ㎜： 突砂法 舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 7-2 又は RI 法による	2,000 ㎡ごとに 1 回、又は施工箇所一層ごとに 1 日 15 点 (RI 法)	材料の項で求めた90%以上（締固め試験（JIS A 1210）D・E 法）　ただし、JIS A 1210 D・E 法での管理は、標準の施工仕様よりも締固 めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械 を使用する場合や 1 層あたりの仕上り厚を薄くする場合）に適用する。 RI 法では最大乾燥度密度の92%以上（締固め試験（JIS A 1210）D・E 法）。	
				平板載荷試験	JIS A 1215	2,000 ㎡ごとに 1 回	設計図書に規定	
				プルーフローリング	舗装調査・試験法便覧Ⅲ-7-4 による	仕上げ面全体を 1 回以上	監督職員の承諾	
		切土路床工	材料	含水比試験	JIS A 1203	2,000 ㎡ごとに 1 回		
				土の塑性指数試験	JIS A 1205	2,000 ㎡ごとに 1 回	設計図書に規定	
				土の締固め試験	JIS A 1210 に規定する D又は E の方法 又は設計図書の規定による	2,000 ㎡ごとに 1 回		

工種	種別		材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規格値	摘要
コンクリート舗装工	路床工	切土路床工	施工	土の含水比試験	JIS A 1203、簡易方法又は RI 法による	1 日ごとに 1 回、又は 2,000㎡ごとに 1 回 (RI 法)	最適含水比付近	
				締固め密度試験	最大粒径≦53 ㎜： 砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径＞53 ㎜： 突砂法 舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 7-2 又は RI 法による	2,000 ㎡ごとに 1 回、又は施工箇所 1 層ごとに 1 日 15 点 (RI 法)	材料の項で求めた最大乾燥密度の90%以上（締固め試験（JIS A 1210）D・E 法） ただし、JIS A 1210 D・E 法での管理は、標準の施工仕様よりも締固 めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械 を使用する場合や１層あたりの仕上り厚を薄くする場合）に適用する。 RI 法では最大乾燥度密度の92%以上（締固め試験（JIS A 1210）D・E 法）	
				平板載荷試験	JIS A 1215	2,000 ㎡ごとに 1 回	設計図書に規定	
				プルーフローリング	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 7-4 による	仕上げ面全体を 1 回以上	監督職員の承諾	
	しゃ断層		材料	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	当初及び材料が異なるごとに 1 回	設計図書に規定	
				含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なるごとに 1 回		
	凍上抑制層		材料	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	当初及び材料が異なるごとに 1 回	設計図書に規定	
				骨材の微粒分量試験	JIS A 1103	当初及び材料が異なるごとに 1 回		
				土の締固め試験	JIS A 1210 に規定する D 又は E の方法、又は 設計図書の規定による	当初及び材料の異なるごとに 1 回		
			施工	締固め密度試験	最大粒径≦53 ㎜： 砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径＞53 ㎜： 突砂法 舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 7-2、又は RI 法によ る。	2,000 ㎡ごとに 1 回、又は施工箇所一層ごとに 1日 15 点(RI 法)	材料の項で求めた最大乾燥密 度の 90%以上	
	下層路盤		材料	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	当初及び材料が異なるご とに 1 回	設計図書による (記載なき場合、最大粒径 50㎜)	
				土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なるごとに 1 回		
				土の塑性指数試験	JIS A 1205	当初及び材料が異なるごとに 1 回	0.425㎜ふるい通過分の塑 性指数(PI)6 以下	
				修正 CBR 試験	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 5-1 による	当初及び材料が異なるごとに 1 回	クラッシャーラン：20%以上 クラッシャーラン鉄鋼スラ グ：30%以上 再生クラッシャーラン 20% ［30%］以上	再生クラッシャーラン使用の場合、第5編 第5章 5-5-4-2 4.6）参照
				土の締固め試験	JIS A 1210 に規定する D 又は E の方法、 又は 設計図書の規定による	当初及び材料の異なるごとに 1 回		

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
コンクリート舗装工	下層路盤	施　　工	含水比試験	JIS A 1203、 又は簡易方法による	1 日ごとに 1 回	最適含水比付近	
			締固め密度試験	JIS　A　1214(砂置換法) 又は舗装調査・試験法便 覧Ⅲ 7-2 による	各層ごと、2,000　㎡ごと　に 1 回	材料の項で求めた最大乾燥 密度の 95%以上	
			平板載荷試験	JIS A 1215	仕上げ面で 2,000 ㎡ごとに 1 回	設計図書に規定	上層路盤にアスファルト 安定処理工法又はセメン ト安定処理工法が採用さ れている場合
			プルーフローリング	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 7-4 による	仕上げ面全体を 1 回以上	監督職員の承諾	
	上層路盤 （粒度調整及び再生粒度調整）	材　　料	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	当初及び材料が異なるごとに 1 回	最大粒径は 40㎜	
			土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なるごとに 1 回		
			土の塑性指数試験	JIS A 1205	当初及び材料が異なるごとに 1 回	0.425㎜ふるい通過分の塑性 指数(PI)4 以下	
			修正 CBR 試験	舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 5-1 による	当初及び材料が異なるごとに 1 回	粒度調整材：80%以上 粒度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞ、水硬性粒 度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞ：80%以上	
			土の締固め試験	JIS　A 1210 に規定する D 又は E の方法、又は 設計図書の規定による	1 日ごとに 1 回		
		施　　工	含水比試験	JIS A 1203、又は簡易方 法による	1 日ごとに 1 回	最適含水比付近	
			骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	各層ごと、2,000　㎡ごと　に 1 回	材料を承諾した時の値に対 して 2.36 ㎜±10%以内、0,075㎜±4%以内	
			締固め密度試験	JIS　A　1214(砂置換法)又は舗装調査・試験法便 覧Ⅲ 7-2 による	仕上げ面で 2,000 ㎡ごとに 1 回	材料の項で求めた最大乾燥密度の 95%以上	
			平板載荷試験	JIS A 1215	仕上げ面で 2,000 ㎡ごとに 1 回	設計図書に規定	

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
コンクリート舗装工	上層路盤 （セメント安定処理）	材　　料	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	最大粒径 40 ㎜	
			土の含水比試験	JIS A 1203	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回		
			土の塑性指数試験	JIS A 1205	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	0.425㎜ふるい通過分の塑 性指数(PI)9 以下	
			骨材の密度及び吸水率試験	細骨材はJIS A 1109、粗骨材はJIS A 1110	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回		
			セメントの物理試験	JIS R 5201	配合設計前に 1 回	JIS R 5210、JIS R 5211	試験成績表を提出
			配合設計		製造所及び材料が異なるごとに 1 回		配合表を提出
		施　　工	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	1 日ごとに 1 回	示方配合を決定した時の値 に対して 2.36㎜±10%以 内、0.075 ㎜±4%以内	
			含水比試験	JIS A 1203	1 日ごとに 1 回	最適含水比付近	
			一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧Ⅲ5-2 による	1 日ごとに 1 回	2.0N/㎟以上	
			セメント量	監督職員の承諾する方 法	1 日ごとに 1 回	示方配合を決定した時の値に対して±0.5%以内	
			締固め密度試験	JIS A 1214	2,000 ㎡ごとに 1 回	一軸圧縮試験で求めた最大乾燥密度の 95%以上	
	上層路盤 （アスファルト安定処理）	材　　料	16.「アスファルト舗装工」を適用する		16.「アスファルト舗装工」を適用する		
			塑性指数試験	JIS A 1205	当初及び材料が異なるご とに 1 回	0.425㎜ふるい通過分の 塑性指数(PI)9 以下	再生加熱アスファルト 混合物の使用時は舗装 再生便覧を参考とする。
		アスファルトプラ ント	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	ホットビン、1 日ごとに 1 回	現場配合を決定した時の値に対 して 2.36 ㎜ ±10% 以内 、 0.075m±4%以内	
			温度測定(アスファル ト・骨材・混合物)	温度計による	アスファルトは、ケットルごと 1日ごとに 1 回 骨材は、ホットシュートにて 1 日ごとに 1 回 混合物は、トラック 1 台ごとに 1 回(ミキサー排出時)	・アスファルトは配合設計で決定 した温度の±15℃ ・骨材は配合設計で決定した温度 のと25℃ ・混合物は 185℃以下で配合設計 で決定した温度の±25℃	再生加熱アスファルト混 合物の使用時は舗装再生 便覧を参考とする。

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
コンクリート舗装工	上層路盤 （アスファルト安定処理）	施工	混合物の打込み温度 測定 （初期転圧前）	温度計による	トラック 1 台ごとに 1 回	110℃以上	改質合材は別途、設計図 書にて規定
			基準密度測定	舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 2-2 による	工事開始後、最初の 2　日間の午前・午後の各 3 個のマーシャル供 試体を作製（計 3×2×2=12）	基準密度は測定した密度の平均 値とし、監督職員の承諾を得るも のとする。	
			マーシャル安定度試 験	舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 2-1 による	1 日ごとに 1 回	安定度 3.45KN 以上 フロー値(1/100cm)10～40 空隙率 3～12%	
			混合物の現場密度測 定	舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 2-2 による	2,000 ㎡ごとに 1 回	基準密度の 95%以上	再生加熱アスファルト混 合物の使用時は舗装再生 便覧を参考とする。
	上層路盤 （ｱｽﾌｧﾙﾄ中間層）	材料 及び 施工	アスファルト安定処理工法を適用する。		アスファルト安定処理工法を適用する。 ただし、マーシャル安定度試験の規格値は、安定度 4.90KN 以上、 フロー値(1/100 cm)20～40、空隙率 3～6%、飽和度 70～85%		再生加熱アスファルト混 合物の使用時は舗装再生 便覧を参考とする。
	無筋コンクリート版	材料	コンクリート中の塩 化物含有量の限度	JIS　A 5308、JIS A 1144	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	共通仕様書第 2 編 2-4-2「コンク リート舗装の材料」12.4）を適用	試験成績表を提出
			セメントの物理試験	JIS R 5201	配合設計前に 1 回	・JIS R 5210(ポルトランドセメン ト) ・JIS R 5211(高炉セメント) ・JIS R 5212(シリカセメント) ・JIS R 5213(フライアッシュセメ ント)	1.セメントは、搬入ごと に製造会社の試験表を提 出 2.セメントを 3 ヵ月以上 貯蔵したり湿った場合、 物理試験を行う
			水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合：JIS A 5308 附属書JC	工事開始前及び工事中 1 回/年以上及び水質が変わ った場合	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量： 1g/L 以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメント凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強さの比： 材齢 7 日及び材齢 28 日で 90% 以上	・上水道を使用してい る場合は試験に換え、 上水道を使用している ことを示す資料による 確認を行う。
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書JC	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合 スラッジ水の濃度は1回/日	塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は 30 分以内、終結は 60 分以内 モルタルの圧縮強さの比：材齢 7 日及び材齢 28 日で 90%以上	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。 試験成績表を提出
			骨材の密度及び吸水率試験	細骨材は JIS A 1109 粗骨材は JIS A 1110	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-2 「コンクリート舗装の材 料」12.1)～13.4)を適用	試験成績表を提出
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-2 「コンクリート舗装の材 料」12.1)～13.4)を適用	試験成績表を提出

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
コンクリート舗装工	無筋コンクリート版	材　　料	骨材の有害物試験	骨材中に含まれる粘土塊量の試験は JIS A 1137 骨材微粒分量試験方法は JIS A 1103	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	細骨材は、共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-2「コンクリート 舗装の材料」12.2)を適用 粗骨材は、共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-2「コンクリート舗装の材料」13.2)を適用	試験成績表を提出
			細骨材の有機不純物試験	JIS A 1105	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-2「コンクリート舗装の材 料」12. 3)を適用	試験成績表を提出
			骨材の耐久性試験	安定性試験は JIS　A 1122、アルカリシリカ 反応性試験は、JIS　A 5308 附属書JB による	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-2「コンクリート舗装の材 料」12. 6)、13.3)を適用	試験成績表を提出
			細骨材の塩分含有量試験	土木学会規準 JSCE-C502-2023 海砂の塩化物イオン含有率試験方法（滴定法）（案）」による	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	NaCℓ　に換算して 0.04%以下	試験成績表を提出
			砕砂及び砕石の品質試験	JIS A 5005	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回		試験成績表を提出
			高炉スラグ細骨材及び粗骨材の品質試験	JIS A 5011-1～5	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回		試験成績表を提出
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	35%以下 積雪寒冷地は 25%以下	試験成績表を提出
			混和材料	AE　剤及び減水剤は JIS A 6204、フライアッシュは JIS A 6201 高炉スラグは JIS　A 6206、シリカフュームは JIS A　6207	ＪＩＳ工場製品：製造前及び使用材料変更時、ＪＩＳ 工場製品以外：搬入時		試験成績表を提出
			目地材料	設計図書に規定	搬入時		試験成績表を提出
			鋼材	ダウエルバーは、JIS G 3112、JIS G 3101 タイバーは、JIS　G 3112、鉄網は、JIS G 3551、JIS G 3112	搬入時		試験成績表を提出
			路盤紙	JIS Z 1702 JIS P 3401	搬入時		試験成績表を提出
			石油アスファルト乳剤の品質試験	JIS K 2208	搬入時	JIS K 2208	試験成績表を提出
			示方配合設計		製造所及び材料が異なるごとに 1 回		配合報告書を提出
			現場配合設計		製造所及び材料が異なるごとに 1 回		配合報告書を提出

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
コンクリート舗装工	コンクリートプラント（レディーミクストコンクリートは除く）	施　　工	コンクリートの塩化 物含有量	JIS A 5308 による (JIS A 1144)	材料が異なるごと	共通仕様書 第5編 第5章 5-5-4-2「コンクリート舗装の材料」11.4)を適用	
			骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	細骨材 1 日ごとに 2 回 粗骨材 1 日ごとに 1 回	共通仕様書 第5編 第5章 5-5-4-2「コンクリート舗装の材 料」12.1)～13.4)を適用	砂の粗粒率(F.M)が 0.2 以 上変化した場合、配合修正
			骨材の表面水率試験	JIS A 1111 又は監督職員 の承諾する方法	細骨材 1 日ごとに 2 回 粗骨材 1 日ごとに 1 回		
			計量器目盛の検査		作業開始前	水±1% セメント±1% 骨材±3% 混和材±2% 混和剤±3%	
	コンクリート（打ち込み現場）	施　　工	スランプ試験	JIS A 1101、JIS A1115	圧縮強度試験用供試体採取 時及び打ち込み中に品質の 変化が認められたとき。	2.5±1 ㎝又は沈下度 30 秒、 5.0cm±1.5cm	・スランプ 6.5cm は人力 施工に適用。 ・小規模工種で 1 工種当り の総使用量が 50 ㎥未満の 場合は 1 工種 1 回以上。 また生コンクリート工場 (JIS マーク表示認証工場) の品質証明書等のみとす ることができる。
			空気量の測定	JIS A 1116、JIS A 1118 JIS A 1128	圧縮強度、曲げ強度試験用 供試体採取時及び打ち込み 中に品質の変化が認められ たとき。	4.5±1.5%	小規模工種で 1 工種当り の総使用量が 50 ㎥未満の 場合は 1 工種 1 回以上。 また生コンクリート工場 (JIS マーク表示認証工場) の品質証明書等のみとす ることができる。
			温度	温度計による	供試体作製時	設計図書に規定	暑中、寒中コンクリート又 は監督職員が認めた場合
	無筋コンクリート版（現場練りコンクリート）	施工	曲げ強度試験	JIS A1106、JIS A1115、JIS A1132	1 日ごとに少なくとも 1 回 又はコンクリート 150 ㎥ごとに 1 回、1 回につき 3個の 28 日強度用供試体を 作製	28 日強度は、各供試体の 試験結果が設計基準強度 の 85%以上、3 個の供試 体の試験結果の平均値が 設計基準強度以上	「設計基準強度」空港 基本施設用は 5.0N/㎟ 以 上、道路施 設用は 4.5N/㎟以上
	無筋コンクリート版（レディーミクストコンクリート）	施工	曲げ強度試験	JIS A1106、JIS A1115、JIS A 1132	1 日ごとに少なくとも 1 回又はコンクリート 150 ㎥ごとに 1 回、1 回につき 3個の 28 日強度用供試体を 作製	28 日強度は、各供試体の 試験結 果が 呼び強度の 85%以上、3 個の供試体 の試験結果の平均値が呼 び強度以上	「呼び強度」空港基本 施設用は、5.0N/㎟以 上、 道路施設 用 は 4.5N/㎟以上
	連続鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 版	材 料 及び 施工	「無筋コンクリート版」を適用する		「無筋コンクリート版」を適用する		

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
コンクリート舗装工	ＰＣ舗装 （現場練りコンクリート及びレディーミクストコンクリート）	材料	骨材の粒度試験	JIS A 1102	配合設計前及び材料が異なるごとに 1 回	設計図書に規定	試験成績表を提出
			ＰＣ鋼材の材質試験	ＰＣ鋼より線 JIS G 3536 ＰＣ鋼棒 JIS G 3109	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出
			定着体の材質試験	支圧板 JIS G 3101 内筒管 JIS G 3444 外筒管 JIS G 3452	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出
			定着具の材質試験	設計図書に規定	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出
			シースの材質試験	設計図書に規定	搬入時	設計図書に規定	試験成績表を提出
			その他の試験（測定）項目等は、「無筋 コンクリート版」を適用する		その他の試験（測定）項目等は、「無筋コンクリート版」を適用する		
	ＰＣ舗装 （ＰＣグラウト）	材料	セメントの物理試 験	JIS R 5201	搬入時	JIS R 5210	1.試験成績表を提出 2.セメントを 3 箇月以上貯蔵又は湿った場合は、物理試験を行う
			水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合：JIS A 5308 附属書JC	工事開始前及び工事中 1 回/年以上及び水質が変わ った場合	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量： 1g/L 以下 塩化物イオン量 ： 200mg/L 以下 セメント凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強さの比： 材齢 7 日及び材齢 28 日で 90% 以上	・上水道を使用してい る場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による 確認を行う。
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書JC	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合 スラッジ水の濃度は1回/日	塩化物イオン量 ： 200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は 30 分以内、終結は 60 分以内 モルタルの圧縮強さの比： 材齢 7 日及び材齢 28 日で 90% 以上	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。 試験成績表を提出
			示方配合設計		製造前及び材料が異なるごとに 1 回		示方配合表を提出
			現場配合設計	監督職員の承諾する 方法	製造前及び材料が異なるごとに 1 回		配合報告書を提出
	ＰＣ舗装 （現場練りコンクリート）	施　　工	「無筋コンクリート版」を適用する		「無筋コンクリート版」を適用する		
	ＰＣ舗装 （ＰＣグラウト設備）	施　　工	計量器目盛の検査		工事開始前に 1 回		
			キャリブレーション(グラウトミキサ)	監督職員の承諾する 方法	工事開始前に 1 回	設計図書に規定	
			キャリブレーション(グラウトポンプ)	監督職員の承諾する 方法	工事開始前に 1 回	設計図書に規定	
			練り混ぜ性能試験	監督職員の承諾する 方法	工事開始前に 1 回	設計図書に規定	試験成績表を提出

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
コンクリート舗装工	ＰＣ舗装（現場練りコン クリート及びレ ディーミクスト コンクリート）	施工	スランプ試験	JIS A 1101、JIS A 1115	供試体作製時	2.5±1cm 又は沈下度 30秒、6.5 cm±1.5cm	
			空気量試験	JIS A1115、JIS A1116 JIS A 1118、JIS A 1128	供試体作製時	4.5±1.5%	
			温度測定	温度計による	供試体作製時	設計図書に規定	
			１次仮緊張前の圧縮 強度試験	JIS A1108、JIS A1115 JIS A1132	1 次仮緊張前に 1 回、1 回につき 3 個の供試体を作製	各供試体の試験結果が設計基準強度の 85%以上、3 個の供試体の試験結果の平均値が設計基準強度以上	「設計基準強度」与える支圧強度の 2 倍以上
	ＰＣ舗装（現場練りコン クリート）	施工	圧縮強度試験	JIS A 1108 JIS A 1115 JIS A 1132	1 日ごとに少なくとも 1 回又はコンクリート 150 ㎥ごとに 1 回、1 回につき 3個の 28 日強度用供試体を作製	28 日強度は、各供試体の試験結果が設計基準強度の 85%以上、3 個の供試体の試験結果の平均値が設計基準強度以上	呼び強度は、設計図書による
			曲げ強度試験	JIS A 1106 JIS A 1115 JIS A 1132	1 日ごとに少なくとも 1 回又はコンクリート 150 ㎥ごとに 1 回、1 回につき 3個の 28 日強度用供試体を作製	28 日強度は、各供試体の試験結果が設計基準強度の 85%以上、3 個の供試体の試験結果の平均値が設計基準強度以上	「設計基準強度」空港基本施設用は 5.0N/㎟以 上、道路施 設用は 4.5N/㎟以上
	ＰＣ舗装（レディーミクス トコンク リー ト）	施工	圧縮強度試験	JIS A 1108 JIS A 1115 JIS A 1132	1 日ごとに少なくとも 1 回又はコンクリート 150 ㎥ごとに 1 回、1 回につき 3個の 28 日強度用供試体作製	28 日強度は、各供試体の試験結 果が 呼び強度の 85%以上、3 個の供試体の試験結果の平均値が呼び強度以上	呼び強度は、設計図書による
			曲げ強度試験	JIS A 1106 JIS A 1115 JIS A 1132	1 日ごとに少なくとも 1 回又はコンクリート 150 ㎥ごとに 1 回、1 回につき 3個の 28 日強度用供試体を作製	28 日強度は、各供試体の試験結 果が 呼び強度の 85%以上、3 個の供試体の試験結果の平均値が呼び強度以上	「呼び強度」空港基本施設 用は 5.0N/ ㎟以 上、 道路施設 用 は4.5N/㎟以上
	ＰＣ舗装（ＰＣグ ラウ ト）	施　　工	流動性試験	土 木 学 会 規 準 JSCE-F531-2018「PC グラウトの流動性試 験方法（案）」による	1 日ごとに 1 回	JP　ロートによる流下時 間は監督職員の承諾	
			膨張率・ブリーディン グ試験	土 木 学 会 規 準 JSCE-F532-2018「PCグラウトのブリーデ ィング率及び膨張率 試験方法（ポリエチレ ン袋方法）」 又は	1 日ごとに 1 回	0.5%以下	膨張率
				JSCE-F533-2013「PCグラウトのブリーデ ィング率及び膨張率 試験方法（容器方法） による	1 日ごとに 1 回	0.0%以下	ブリーディング率
			水セメント比測定	水及びセメントの重 量測定	1 日ごとに 1 回	45%以下	
			圧縮強度試験	土 木 学 会 規 準 JSCE-G531-2013「PC グラウトの圧縮 強度試験方法」による	1 日ごとに 1 回、1 回につき 3 個の 28 日強度用供試 体を作製	28 日強度は、各供試体の 試験結果が設計基準強度 の 85%以上、3 個の供試体の試験結果の平均値が 設計基準強度以上	「設計基準強度」20N/㎟以上
			温度測定	温度計による	1 日ごとに 1 回	設計図書に規定	

16. アスファルト舗装工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
アスファルト舗装工	路床工 しゃ断層 凍上抑制層	材料及び施工	15.「コンクリート舗装工」を適用する。な お、平板載荷試験を除く		15.「コンクリート舗装工」を適用する。なお、平板載荷試験を除く		
		施工	現場ＣＢＲ試験	JIS A 1222	2,000m2 ごとに 1 回	設計図書に規定	
	下層路盤	材料	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	当初及び材料が異なるごと に 1 回	設計図書の規定による。 (規定無き場合は最大粒径 50mm)	
			土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なるごとに 1 回		
			土の塑性指数試験	JIS A 1205	当初及び材料が異なるごと に 1 回	0.425 mmふるい通過分塑 性指数(PI) タイプ A,B 6 以下 タイプ C 10 以下	・タイプ A,B,C の規定 は、共通仕様書第 2 編 2-4-3 による
			修正ＣＢＲ試験	舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 5-1 による	当初及び材料が異なるごと に 1 回	タイプ A 30%以上 タイプ B 20%以上 タイプ C 10%以上	
			土の締固め試験	JIS A 1210 に規定する D 又は E の方法、又は 設計図書による	当初及び材料が異なるごと に 1 回		
		施工	15.「コンクリート舗装工」を適用する。な お、平板載荷試験を除く		15.「コンクリート舗装工」を適用する。なお、平板載荷試験を除く		
	上層路盤 （粒度調整及び 再生粒度調整）	材料	骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	当初及び材料が異なるごとに 1 回	設計図書に規定	
			土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料が異なるごとに 1 回		
			土の塑性指数試験	JIS A 1205	当初及び材料が異なるごとに 1 回	0.425 mmふるい通過分の 塑性指数(PI)4 以下	
			修正ＣＢＲ試験	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 5-1 による	当初及び材料が異なるごとに 1 回	80%以上	
			土の締固め試験	JIS A 1210 に規定する D 又は E の方法、又は 設計図書による	当初及び材料が異なるごと に 1 回		
		施工	15.「コンクリート舗装工」を適用する。な お、平板載荷試験を除く		15.「コンクリート舗装工」を適用する。なお、平板載荷試験を除く		
	上層路盤 （セメント安定処理）	材料	15.「コンクリート舗装工」を適用する		15.「コンクリート舗装工」を適用する		
		施工	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 5-2 による	1 日ごとに 1 回	3N/mm2 以上	
			その他は、15.「コンクリート舗装工」 を適用する		その他は、15.「コンクリート舗装工」を適用する		

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
アスファルト舗装工	上層路盤（アスファルト安定処理）	材料	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	当初及び材料が異なるごとに 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-3「アスファルト舗装の材料」 4. を適用	
			その他は、16.「アスファルト舗装工」表層及び基層（加熱アスファルト混合物）、材料を適用する。		その他は、16.「アスファルト舗装工」、表層及び基層（加熱アスファルト混合物）、材料を適用する。		再生加熱アスファルト混合物の使用時は舗装再生便覧を参 考とする。
		施工	マーシャル安定度試験	舗装調査・試験法便覧 Ⅲ 2-1 による	1 日ごとに 1 回（1 回に 3個）	「基本施設タイプ A」は、マーシャル安定度 4.90KN以上 、フロー値（1/100cm）20～40、空隙率 3～8%	突固め回数は、両面各75 回
						「基本施設タイプ B」は、マーシャル安定度 3.45KN以上、 フロー値(1/100cm)20～40、空隙率3～8%	突固め回数は、両面各50 回
						「道路及び駐車場」は、マーシャル安定度 3.45KN以上 、フロー値（1/100cm）10～40、空隙率 3～12%	突固め回数は、両面各50 回
			その他は、16.「アスファルト舗装工」、表層及び基層(加熱アスファルト混合物)、施工を適用する。		その他は、16.「アスファルト舗装工」、表層及び基層(加熱アスファルト混合物)、施工を適用する。ただし、混合物の密度の規格値は以下のとおりとする。 基本施設の上層路盤(アスファルト安定処理路盤)は基準密度の 98%以上 道路及び駐車場の上層路盤(アスファルト安定処理路盤)は基準密度の 95%以上		再生加熱アスファルト混合物の使用時は舗装再生便覧を参考とする。
	表層及び基層（加熱アスファ ルト混合物）	材　　料	ストレートアスファルトの品質試験	JIS K 2207	配合設計前に 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-3 「アスファルト舗装の材 料」7.1)を適用	試験成績表を提出
			ゴム・熱可塑性エラストマーの品質試験	JIS K 2207 及び舗装調査・ 試験法便覧Ⅲ 1-2 による	配合設計前に 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-3 「アスファルト舗装の材 料」7.2)～4)を適用	試験成績表を提出
			石油アスファルト乳剤の品質試験	JIS K 2208	搬入時	JIS K 2208	試験成績表を提出
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	当初及び材料が異なるご とに 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-3 「アスファルト舗装の材 料」7.4)を適用	試験成績表を提出
			砕石の品質	JIS A 5001	当初及び材料が異なるごとに 1 回		試験成績表を提出
			骨材の安定性試験	JIS A 1122	当初及び材料が異なるごとに 1 回		試験成績表を提出
			骨材の有害物含有量試験	JIS A 1137 及び舗装調査・ 試験法便覧Ⅲ 1-1 による	当初及び材料が異なるご とに 1 回	粘土、粘土塊 0.25%以下 軟らかい石片 5.0%以下 細長、あるいは偏平な石 片 10.0%以下	試験成績表を提出
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1110	当初及び材料が異なるごとに 1 回	比重 2.45 以上 吸水率 3%以下	試験成績表を提出
			粗骨材のすりへり試 験	JIS A 1121	当初及び材料が異なるごとに 1 回	35%以下	試験成績表を提出
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008	当初及び材料が異なるご とに 1 回	共通仕様書 第5編 第5章　5-5-4-3 「アスファルト舗装の材 料」8.2)を適用	試験成績表を提出
			フィラーの水分及び 比重試験	JIS A 5008	当初及び材料が異なるごとに 1 回	JIS A 5008	試験成績表を提出

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
アスファルト舗装工	表層及び基層（ 加熱アスファルト混合物）	材　　料	配合設計		当初及び材料が異なるごとに 1 回		耐流動用の配合を含む。
			現場配合設計		当初及び材料が異なるごとに 1 回		耐流動用の配合を含む。
			配合報告書	監督職員の承諾する方法	当初及び材料が異なるごとに 1 回		配合報告書を提出
			プライムコートの品質試験	JIS K 2208	搬入時	JIS K 2208	試験成績表を提出
			タックコートの品質試験	JIS K 2208 JEAAS-2020	搬入時	JIS K 2208 JEAAS-2020	試験成績表を提出
			水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 2-1 による。試験条件：上面からの水の浸透を対象にした場合	配合設計ごとに 2 枚/回	はく離面積率 5%以下	基本施設で交通解放をする基層に再生加熱アスファルト混合物を使用する時のみ実施する試験
				舗装調査・試験法便覧Ⅲ 2-1 による。試験条件：下面からの水の浸透を対象にした場合	配合設計ごとに 2 枚/回	はく離面積率 5%以下	基本施設で交通解放をしない基層に再生加熱アスファルト混合物を使用する時のみ実施する試験
		施　　工	混合物の打込み温度測定（初期転圧前）	温度計による	トラック 1 台ごとに 1 回(転圧前に測定)	110℃以上	改質合材は別途、設計図書にて規定
			基準密度測定	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 2-2 による	工事開始後、最初の 2 日間の午前・午後の各 3 個のマーシャル供試体を作製（計 3×2×2=12 体）	基準密度は測定した密度の平均値とし、監督職員の承諾を得るものとする。	測定結果を提出
			マーシャル安定度試験	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 2-1 による	1 日ごとに 1 回、1 回につき 3 個のマーシャル供試体を作製	共通仕様書 第5編 第5章 5-5-4-3 「アスファルト舗装の材料」9. 10.を適用	試験成績表を提出
			混合物の密度試験	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 2-2 による	各層 4,000 ㎡ごとに 1 回	基本施設の表層及び基層は、基準密度の 98%以上。 道路及び駐車場の表層及び基層は、基準密度の 95%以上	再生加熱アスファルト混合物の使用時は舗装再生便覧を参考とする。
	表層及び基層 （ アスファルトプラント） ※工事にあたりアスファルトプラントを設置する場合に適用	施　　工	混合物の温度	監督職員の承諾する方法	ホットビンごと 1 日ごとに 1 回		
			計量目盛の検査		作業開始前に行う		
			骨材のふるい分け試 験	JIS A 1102	ホットビンごと 1 日ごとに1 回	現場配合を決定したときのふるいを通るものの質量百分率の値に対して、2.36㎜±8% 以内、0.075 ㎜±3.5%以内	
			温度測定(アスファルト、骨材、混合物)	温度計による	アスファルトは、ケットル ごと 1 日ごとに 1 回、骨材は、ホットシュートにて 1日ごとに 1 回、混合物は、 トラック 1 台ごとに 1 回(ミキサー排出時)	事前に監督職員に承諾を得た 温度に対し±25℃かつ 185℃ 以下	再生加熱アスファルト混合物の使用時は舗装再生便覧を参考とする。
			アスファルト抽出試験	舗装調査・試験法便覧Ⅲ 7-5 による、又は印字記録による	1 日ごとに 1 回	規定の±0.3%以内	再生加熱アスファルト混合物の使用時は舗装再生便覧を参考とする。

17. 飛行場標識工及び標識工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
飛行場標識工及び標識工	路面表示用塗料	材料		JIS K 5665	搬入時	JIS K 5665	試験成績表を提出
	ガラスビーズ	材料		JIS R 3301	搬入時	JIS R 3301	試験成績表を提出
	標示板	材料		JIS G 3131、JIS G 3141 JIS H 4000 JIS　K　6718-1 、JIS　K 6718-2 JIS K 6744	搬入時	JIS G 3131、JIS G 3141 JIS H 4000 JIS K 6718-1、JIS K 6718-2 JIS K 6744	試験成績表を提出
	支柱	材料		JIS G3101、JIS G 3192 JIS G3444、JIS G 3452	搬入時	JIS G 3101、JIS G 3192 JIS G 3444、JIS G 3452	試験成績表を提出
	鋼材	材料		JISG3101、JIS G3131 JIS G 3141 JIS H 4100	搬入時	JIS G 3101、JIS G 3131、JIS G 3141 JIS H 4100	試験成績表を提出

18. タイダウンリング工及びアースリング工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
タイダウンリング及びアースリング工	タイダウンリング及びアースリング	材　　料		JIS C 3105、JIS G 4303 JIS H 3100、JIS K 5665	搬入時	リング　JIS G 4303 アース　JIS C 3105 設置極板　JIS H 3100 標識　JIS K 5665	試験成績表を提出

19. 道路付属施設工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
道路付属施設工	防護柵	材料		JIS B1180、JIS B 1181 JISG3101、JIS G3444、 JISG 3466、JIS G 3525	搬入時	共通仕様書 第5編 第6章　5-6-6-2 「材料」を適用する	試験成績表を提出
	縁石	材料		JIS A 5371	搬入時	JIS A 5371	
	アスカーブ	材料	アスファルト混合物については、16.「アスファ ルト舗装工」を適用する		アスファルト混合物については、16.「アスファルト舗装工」を適用する		

20. 飛行場標識維持工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
飛行場標識維持工	路面表示用塗料	材　　料		JIS K 5665	搬入時	JIS K 5665	試験成績表を提出
	ガラスビーズ	材　　料		JIS R 3301	搬入時	JIS R 3301	試験成績表を提出

21. 区画線維持工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
区画線維持工	路面表示用塗料	材　　料		JIS K 5665	搬入時	JIS K 5665	試験成績表を提出
	ガラスビーズ	材　　料		JIS R 3301	搬入時	JIS R 3301	試験成績表を提出

22. 植木手入れ工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
植木手入れ工	施肥	材　　料			搬入時		品質証明書による
	薬剤	材　　料			搬入時		

23. 目地修繕工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
目地修繕工	プライマー	材　　料		製造会社の試験	搬入時		品質証明書による
	バックアップ材	材　　料		製造会社の試験	搬入時		
	注入目地材	材　　料		製造会社の試験	搬入時		

24. 塗装修繕工

工種	種　　別	材料、施工別	試験（測定）項目	試験（測定）方法	試験（測定）頻度	規　格　値	摘　　要
塗装修繕工	塗料	材　　料		JIS K 5600-1-1～9-3	搬入時		試験成績表を提出